

# 平成15年度教育課程実施状況調査 教科別分析と改善点 (中学校・社会)

## 1. 今回の調査結果の特色

### (1) 調査結果の概要

#### 【ペーパーテスト調査】

##### < 地理的分野 >

「地域の規模に応じた調査」における様々な課題についての調べ方や設定の仕方に関する問題、資料の読み取りに関する問題では、設定通過率を上回る又は同程度のもが多く、現行学習指導要領で重視している調べ学習の成果が表れたと考えられる。

球面における地球的規模での位置関係をとらえる技能や知識、あるいは世界的視野から見た日本の自然環境の地域的特色などに関する知識が十分に身に付いていない状況が見られる。

##### < 歴史的分野 >

資料から読み取ったことを自分の言葉で説明するなど、「資料活用の技能・表現」にかかわる問題では、設定通過率を上回るものが多く、資料を活用した主体的な学習の成果が表れていると考えられる。

「歴史の流れと地域の歴史」においては、複数の時代に共通する特色を問う問題などで、設定通過率を下回るものが多い。また、いくつかの時代において、社会の大きな変化にかかわる知識を問う問題で設定通過率を下回るものが多かった。

##### < 公民的分野 >

新設された「現代日本の歩みと私たちの生活」について、地理的分野と歴史的分野の学習の成果を生かすことができているとともに、資料の用い方など追究の仕方が十分に身に付いていないと考えられる。また、政治や経済の基本的な概念が十分に身に付いていない状況がみられる。

「国民生活と経済」では、消費活動や生産活動など生徒の日常生活の中でよく目にする素材を用いて出題した問題は、設定通過率を上回った。

記述式の問題については、無解答率の減少傾向が見られる。

#### 【質問紙調査】

教師質問紙調査では、課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていることについて、3分野において肯定的な回答をした教師の割合は約5割であった。

地理的分野において、調べ学習に対する生徒の意識については、「きらいだった」と回答した割合が、「好きだった」の割合を上回った。

歴史的分野において、各時代の産業や文化に関する項目は、教師が「生徒にとって理解しにくい」「生徒が興味を持ちにくい」と回答した割合が大きく、生徒も「分からなかった」「きらいだった」の割合が比較的大きい。

公民的分野の「地球環境や資源・エネルギー問題についての学習」については、教師の「生徒にとって理解しやすい」、生徒の「よく分かった」と回答した割合がともに高く、設定通過率と同程度以上の問題が半数以上であった。

## (2) ペーパーテスト調査結果の主な特色

### 過去同一問題についての分析

前回調査（平成13年度調査）と同一の問題の通過率を学年ごとに比較すると、第1学年を除き、前回は有意に上回る問題数が、有意に下回る問題数より多い。

また、同様に分野ごとに比較すると、歴史的分野を除いて、前回は有意に上回る問題数が、有意に下回る問題数より多い。

各学年及び各分野の状況は以下のとおり。

学年別にみた同一問題の通過率比較

学年	全問題数	同一問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
1年	94	24	5 <20.8%>	9 <37.5%>	10 <41.7%>
2年	92	26	13 <50.0%>	10 <38.5%>	3 <11.5%>
3年	92	29	10 <34.5%>	14 <48.3%>	5 <17.2%>
計	278	79	28 <35.4%>	33 <41.8%>	18 <22.8%>

分野別にみた同一問題の通過率比較

分野	全問題数	同一問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
地理	90	22	13 <59.1%>	3 <13.6%>	6 <27.3%>
歴史	96	28	5 <17.9%>	16 <57.1%>	7 <25.0%>
公民	92	29	10 <34.5%>	14 <48.3%>	5 <17.2%>
計	278	79	28 <35.4%>	33 <41.8%>	18 <22.8%>

## (7) 地理的分野

内容、領域別にみた同一問題の通過率比較（地理的分野）

内容領域	問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
(1)世界と日本の地域構成	6	3 <50.0%>	1 <16.7%>	2 <33.3%>
(2)地域の規模に応じた調査	10	5 <50.0%>	1 <10.0%>	4 <40.0%>
(3)世界と比べて見た日本	6	5 <83.3%>	1 <16.7%>	0 <0.0%>
計	22	13 <59.1%>	3 <13.6%>	6 <27.3%>

内容領域全体でみると、「(3)世界と比べて見た日本」で前回と比較して有意に上回る問題の割合が高い。

個別の問題では、資料から、日本が3か国から輸入している上位3品目の大まかな共通性を読み取り、表現することができるかどうかを問うといった、資料を読み取って大まかな共通性や傾向性をとらえる問題では、通過率が前回は有意に上回っている。しかし、日本の地球表面上の位置と広がり理解しているかどうかを問う問題〔1C〔2〕(1)〕のように、球面における地球規模での位置関係をとらえる技能や、その基盤となる緯度・経度の理解を必要とする問題では、通過率が前回は有意に下回っている。

評価の観点別にみた同一問題の通過率比較（地理的分野）

評価の観点	問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
関心・意欲・態度	2	2 <100.0%>	0 <0.0%>	0 <0.0%>
思考・判断	4	3 <75.0%>	0 <0.0%>	1 <25.0%>
技能・表現	11	5 <45.5%>	1 <9.0%>	5 <45.5%>
知識・理解	7	5 <71.4%>	2 <28.6%>	0 <0.0%>

評価の観点別でみた場合は、各観点とも通過率が前回は有意に上回る問題数が、有意に下回る問題数と比べ同数以上となっている。

また、記述式の問題については地理的分野全体で4問あるが、無解答率が減少したものは3問、上昇したものは1問で、無解答率の減少傾向がみられる。

#### (イ) 歴史的分野

内容、領域別にみた同一問題の通過率比較（歴史的分野）

内容領域	問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
(1)古代までの日本	7	2 <28.6%>	3 <42.9%>	2 <28.6%>
(2)中世の日本	2	0 <0.0%>	2 <100.0%>	0 <0.0%>
(3)近世の日本	11	1 <9.1%>	8 <72.7%>	2 <18.2%>
(4)近現代の日本と世界	11	2 <18.2%>	6 <54.5%>	3 <27.2%>
計	31	5 <16.1%>	19 <61.3%>	7 <22.6%>

\* 歴史的分野は、複数領域にまたがる問題があるため、前記表と問題の合計数が異なっている。

(3)及び(4)で、前回は有意に上回る問題数が有意に下回る問題数より少ない。

個別の問題では、土器の使用による生活の変化を考察し説明する縄文時代の生活に関する問題で、前回は有意に下回るものが多かった。

評価の観点別にみた同一問題の通過率比較（歴史的分野）

評価の観点	問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
関心・意欲・態度	3	0 <0.0%>	2 <66.7%>	1 <33.3%>
思考・判断	9	1 <11.1%>	5 <55.5%>	3 <33.3%>
技能・表現	7	1 <14.3%>	4 <57.1%>	2 <28.6%>
知識・理解	11	3 <27.2%>	7 <63.6%>	1 <9.1%>

評価の観点別でみた場合は、「関心・意欲・態度」と「思考・判断」、「技能・表現」の観点で前回は有意に上回る問題数が有意に下回る問題数より少なく、「知識・理解」の観点では前回は有意に上回る問題数が有意に下回る問題数よりも多い。

また、記述式の問題については、歴史的分野全体で6問あるうち、無解答率が前回より減少したものが2問、前回より上昇したものが4問である。

#### (ウ) 公民的分野

内容、領域別にみた同一問題の通過率比較（公民的分野）

内容領域	問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
(1)現代社会と私たちの生活	1	0 <0.0%>	1 <100.0%>	0 <0.0%>
(2)国民生活と経済	10	2 <20.0%>	6 <60.0%>	2 <20.0%>
(3)現代の民主政治とこれからの社会	18	8 <44.4%>	7 <38.9%>	3 <16.7%>
計	29	10 <34.5%>	14 <48.3%>	5 <17.2%>

内容領域全体でみると、政治に関する内容を学習する「現代の民主政治とこれからの社会」で前回調査と比較して有意に上回る問題数が有意に下回る問題数よりも多い。

個別の問題では、資料から介護保険がはじまる背景を読み取ることができるかどうかを問う問題[3B④(3)]のように、新聞やテレビでよく扱われる時事的な問題について通過率が前回調査を有意に上回っている。

評価の観点別にみた同一問題の通過率比較（公民的分野）

評価の観点	問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
関心・意欲・態度	2	0 < 0.0% >	2 < 100.0% >	0 < 0.0% >
思考・判断	6	1 < 16.7% >	5 < 83.3% >	0 < 0.0% >
技能・表現	5	2 < 40.0% >	1 < 20.0% >	2 < 40.0% >
知識・理解	18	7 < 38.9% >	8 < 44.4% >	3 < 16.7% >

評価の観点別でみた場合は、「思考・判断」と「知識・理解」の観点の問題で前回と比べると有意に上回る問題数が有意に下回る問題数よりも多い。

また、記述式の問題については公民的分野全体で9問あるが、無解答率が減少したものは7問、上昇したものは2問で、無解答率の減少傾向が見られる。

### 内容・領域別に見た分析

内容・領域ごとに通過率と設定通過率を比較すると、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数の合計が、全ての分野、全ての領域において半数以上を占めている。各分野の内容・領域別の状況は以下のとおり。

内容、領域別にみた問題ごとの設定通過率との比較

分野	大項目	問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
地理	世界と日本の地域構成	23	9 < 39.1% >	8 < 34.8% >	6 < 26.1% >
	地域の規模に応じた調査	41	16 < 39.0% >	15 < 36.6% >	10 < 24.4% >
	世界と比べて見た日本	26	13 < 50.0% >	6 < 23.1% >	7 < 26.9% >
	計	90	38 < 42.2% >	29 < 32.2% >	23 < 25.6% >
歴史	歴史の流れと地域の歴史	15	3 < 20.0% >	5 < 33.3% >	7 < 46.7% >
	古代までの日本	17	6 < 35.3% >	6 < 35.3% >	5 < 29.4% >
	中世の日本	7	1 < 14.3% >	3 < 42.9% >	3 < 42.9% >
	近世の日本	28	8 < 28.6% >	13 < 46.4% >	7 < 25.0% >
	近現代の日本と世界	32	6 < 18.8% >	13 < 40.6% >	13 < 40.6% >
	計	99	24 < 24.2% >	40 < 40.4% >	35 < 35.4% >
公民	現代社会と私たちの生活	19	11 < 57.9% >	1 < 5.3% >	7 < 36.8% >
	国民生活と経済	27	8 < 29.6% >	6 < 22.2% >	13 < 48.1% >
	現代の民主政治とこれからの社会	46	13 < 28.3% >	15 < 32.6% >	18 < 39.1% >
	計	92	32 < 34.8% >	22 < 23.9% >	38 < 41.3% >
合計		281	94 < 33.5% >	91 < 32.4% >	96 < 34.2% >

\* 歴史的分野は、複数領域にまたがる問題があるため、前記表と問題の合計数が異なっている。

## (7) 地理的分野

中項目別にみた問題ごとの設定通過率との比較（地理的分野）

中 項 目		問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
(1)	ア 世界の地域構成	1 2	5 <41.7%>	5 <41.7%>	2 <16.7%>
	イ 日本の地域構成	1 1	4 <36.4%>	3 <27.2%>	4 <36.4%>
(2)	ア 身近な地域	1 3	3 <23.1%>	6 <46.1%>	4 <30.8%>
	イ 都道府県	1 2	2 <16.7%>	8 <66.7%>	2 <16.7%>
	ウ 世界の国々	1 6	1 1 <68.8%>	1 < 6.2%>	4 <25.0%>
(3)	ア 様々な面からとらえた日本	2 6	1 3 <50.0%>	6 <23.1%>	7 <26.9%>
計		9 0	3 8 <42.2%>	2 9 <32.2%>	2 3 <25.6%>

地理的分野については、「(1)世界と日本の地域構成」の領域では、「ア 世界の地域構成」で扱われる地図の活用や時差の計算に関する問題については、通過率が設定通過率を上回る又は同程度と考えられるが、半球図で水陸分布を読み取る問題や、「イ 日本の地域構成」で取り上げられる緯度上の日本の領域を球面上で特定する問題については、設定通過率を下回ると考えられる。

「(2)地域の規模に応じた調査」の領域では、「ア 身近な地域」で扱われる地形図の読図に関する問題で、通過率が設定通過率を下回ると考えられるものや、前回と同一問題で通過率が前回は有意に下回るものが多い。一方、同じ領域に属する「イ 都道府県」や「ウ 世界の国々」の様々な課題についての調べ方や設定の仕方に関する問題、資料の読み取りに関する問題については、通過率が設定通過率を上回る又は同程度と考えられる。例えば、サウジアラビアの調べ学習における報告文の中から、設定した課題について調べ、明らかにしたこと以外に調べたことを指摘することができるかどうかを問う問題〔2 A ①(3)〕では、通過率が約7割であり、設定通過率を上回ると考えられる。これについては、今回の学習指導要領の改訂で充実が図られた調べ学習の成果が表れたものと考えられる。

「(3)世界と比べて見た日本」の領域では、「ア 様々な面からとらえた日本」における調べ方に関する問題については、通過率が設定通過率を上回る又は同程度と考えられるが、日本の自然環境に関する知識を問う問題については、設定通過率を下回ると考えられる。

地理的分野全体としては、今回の改訂の柱である、「(2)地域の規模に応じた調査」において、事例を通して地域的特色を明らかにする視点や方法を学ぶ学習の成果が表れてきていると考えられる。しかし、その一方で、緯度・経度から地球的規模での位置関係をとらえる技能や知識、あるいは世界的視野から見た日本の自然環境の地域的特色などに関する基礎的な知識が十分に身に付いていない状況もみられ、指導の改善を図る必要があると考えられる。

## (1) 歴史的分野

中項目別にみた問題ごとの設定通過率との比較（歴史的分野）

中項目ごとの主な内容		問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
(1)	ア(歴史の流れ)	15	3 <20.0%>	5 <33.3%>	7 <46.7%>
(2)	ア(人類の出現と農耕の広まり)	6	1 <16.7%>	1 <16.7%>	4 <66.7%>
	イ(国家が形成されていく過程)	5	5 <100.0%>	0 <0.0%>	0 <0.0%>
	ウ(天皇・貴族の政治)	3	0 <0.0%>	2 <66.7%>	1 <33.3%>
	エ(国際的な文化と文化の国風化)	3	0 <0.0%>	3 <100.0%>	0 <0.0%>
(3)	ア(武家政権の成立と武家社会の展開)	3	0 <0.0%>	1 <33.3%>	2 <66.7%>
	イ(産業の発達と都市や農村の自治)	4	1 <25.0%>	2 <50.0%>	1 <25.0%>
(4)	ア(戦国の動乱とヨーロッパ人の来航)	8	4 <50.0%>	3 <37.5%>	1 <12.5%>
	イ(織田・豊臣の統一事業と対外関係)	7	0 <0.0%>	4 <57.1%>	3 <42.9%>
	ウ(江戸幕府の成立と幕府政治の特色)	5	3 <60.0%>	1 <20.0%>	1 <20.0%>
	エ(産業・交通の発達と町人文化)	6	0 <0.0%>	4 <66.7%>	2 <33.3%>
	オ(幕府の政治改革と行き詰まり)	2	1 <50.0%>	1 <50.0%>	0 <0.0%>
(5)	ア(欧米諸国のアジア進出と開国)	6	1 <16.7%>	4 <66.7%>	1 <16.7%>
	イ(明治維新と近代国家の基礎)	2	0 <0.0%>	2 <100.0%>	0 <0.0%>
	ウ(我が国の国際的地位の向上と大陸)	6	1 <16.7%>	3 <50.0%>	2 <33.3%>
	エ(我が国の近代産業の発展)	5	2 <40.0%>	1 <20.0%>	2 <40.0%>
	オ(第一次世界大戦後の世界と日本)	4	2 <50.0%>	1 <25.0%>	1 <25.0%>
	カ(昭和初期から第二次世界大戦終結)	4	0 <0.0%>	1 <25.0%>	3 <75.0%>
	キ(我が国の民主化と再建の過程)	2	0 <0.0%>	0 <0.0%>	2 <100.0%>
	ク(高度経済成長以降の我が国の動き)	3	0 <0.0%>	1 <33.3%>	2 <66.7%>
計		99	24 <24.2%>	40 <40.4%>	35 <35.4%>

\* 歴史的分野は具体的な中項目名がないので、ここでは中項目ごとの主な内容を示している。

また、歴史的分野は、複数領域にまたがる問題があるので、前記表と問題の合計数が異なっている。

歴史的分野については、上の表の「(1)ア」の問題は、歴史的分野の目標に示されている歴史の大きな流れをとらえることができているかどうかを問うものであるが、15問中7問で設定通過率を下回っており、歴史の大きな流れをとらえることが十分にはできていない様子が見られる。特に、複数の時代にまたがる問題や、時代区分や年代の表し方に関する問題で、設定通過率を下回ると考えられるものが多い。例えば、中世から近世までが武家政治という共通性を持つことを問う問題〔2C〔8〕(3)〕は通過率が約4割、世紀による年表の表し方を問う問題〔1A〔5〕(1)〕は、通過率が約5割であった。

次に「(2)古代までの日本」の領域では、邪馬台国や古墳文化など国家が形成されていく時期の基本的な知識を問う問題で設定通過率を上回ると考えられるものが多いが、弥生時代以前に関する問題では設定通過率を下回ると考えられるものが多い。

「(3)中世の日本」の領域では、武家による幕府創設という社会の大きな変化にかかわる問題や、東アジア世界とのかかわりを示す琉球の国際的な役割を問う問題において、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。例えば、源頼朝が政治を行った時期とその特色を問う問題は、通過率が約2割であった。

「(4)近世の日本」の領域では、江戸時代の政治に関する問題において、設定通過率を上回る又は同程度と考えられるものが多い。例えば、鎖国下で外国に在住する人物が日本へ帰国できない理由を説明する問題の通過率は約6割5分である。また、織田・豊臣の政治の特色や江戸時代の産業や文化に関する問題では、設定通過率を下回ると考えられるものが多い。例えば、江戸時代の工場制手工業について問う問題の通過率は約4割5分であった。

「(5)近現代の日本と世界」の領域では、第一次世界大戦前後の時期に関する問題で設定

通過率を上回る又は同程度と考えられるものが多いが、昭和初期から第二次世界大戦後に  
 関する問題では設定通過率を下回ると考えられるものが多い。例えば、冷戦期の世界の動  
 きの特色を問う問題は、通過率が約4割であった。

歴史的分野全体としては、今回の改訂の柱である歴史の大きな流れをとらえる力や、そ  
 の基盤となる社会の大きな変化にかかわる知識が、十分に身に付いていないと考えられる。  
 また、昭和初期から第二次世界大戦後の学習成果が必ずしも十分でなく、歴史的事象を考  
 察する力、産業や文化にかかわる学習への取組にも課題がみられる。

## (ウ) 公的分野

中項目別にみた問題ごとの設定通過率との比較（公的分野）

中 項 目		問題数	上回ると考え られるもの	同程度と考 えられるもの	下回ると考 えられるもの
(1)	ア 現代日本の歩みと 私たちの生活	1 1	4 <36.4%>	1 <9.1%>	6 <54.5%>
	イ 個人と社会生活	8	7 <87.5%>	0 <0%>	1 <12.5%>
(2)	ア 私たちの生活と経済	1 4	6 <42.9%>	3 <21.4%>	5 <35.7%>
	イ 国民生活と福祉	1 3	2 <15.4%>	3 <23.1%>	8 <61.5%>
(3)	ア 人間の尊重と日本国 憲法の基本的原則	1 4	4 <28.6%>	3 <21.4%>	7 <50.0%>
	イ 民主政治と政治参加	1 2	3 <25.0%>	4 <33.3%>	5 <41.7%>
	ウ 世界平和と人類の 福祉の増大	2 0	6 <30.0%>	8 <40.0%>	6 <30.0%>
計		9 2	3 2 <34.8%>	2 2 <23.9%>	3 8 <41.3%>

公的分野については、「(1)現代社会と私たちの生活」の領域では、3分野を統合して  
 新しく設けられた「ア 現代日本の歩みと私たちの生活」に関する問題について、地理的  
 な内容や過去の内容が含まれた問題や、資料の使い方など今回の学習指導要領の改訂で重  
 視された追究の仕方を出題した問題の多くは通過率が設定通過率を下回ると考えられる。  
 例えば、国際化の進展を明らかにするために必要な資料を選択するとともに、選択した理  
 由を表現できるかどうかを問う問題〔3 A①(2)〕では通過率が約4割であった。一方、  
 同じ領域に属する「イ 個人と社会生活」については、社会生活における取決めや個人の  
 責任などについて、生徒の身近な素材を用いて出題した問題のほとんどが通過率が設定通  
 過率を上回ると考えられる。

次に「(2)国民生活と経済」の領域では、市場経済の基本的な考え方を学習する「ア 私  
 たちの生活と経済」について、消費活動や生産活動など生徒の日常生活の中でよく目にす  
 る素材を用いて出題した問題は、通過率が設定通過率を上回ると考えられる。例えば、さ  
 んまを事例に取り上げて供給量の変化と価格の変化との関係について理解しているかどう  
 かを問う問題〔3 B③(1)〕では通過率が約8割であった。一方、同じ領域で、市場経済  
 に委ねられない問題を取り上げて学習する「イ 国民生活と福祉」については、国や地方  
 公共団体が果たす経済的な役割や財政など、経済的諸事象をとらえる見方や考え方を形成  
 する概念を理解しているかどうかを問う問題などが通過率が設定通過率を下回っていると  
 考えられる。例えば、経済の大きな仕組みの中で政府の果たす経済的な役割について理解  
 しているかどうかを問う問題では通過率が約4割であった。

「(3)現代の民主政治とこれからの社会」の領域では、「ア 人間の尊重と日本国憲法の  
 基本的原則」について、国民主権、法に基づく政治の意義など、現代の政治的諸事象をと  
 らえる見方や考え方を形成する概念を理解しているかどうかを問う問題などが通過率が設  
 定通過率を下回っていると考えられる。また、同じ領域で、今回の改訂で「調査や見学な  
 どを通して具体的に理解させること」が求められた「イ 民主政治と政治参加」や、未来  
 のよりよい社会を築くために解決すべき課題として地球環境、資源・エネルギー問題など  
 を取り上げて学習する「ウ 世界平和と人類の福祉の増大」に関する問題は通過率が設定

通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるもの問題数の合計が半数以上となっている。

公民的分野全体としては、3分野を統合して新たに設けた「ア 現代日本の歩みと私たちの生活」に関する問題の分析結果から、地理的分野と歴史的分野の学習の成果を生かすことができていないとともに、今回の改訂で重視された追究の仕方が十分に身に付いていないと考えられる。また、前回調査で指摘された政治や経済の基本的な概念を身に付けさせることについても十分な成果がみられず、改善を図る必要があると考えられる。

### 評価の観点別に見た分析

評価の観点別に通過率と設定通過率を比較すると、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数の合計が、全ての分野、全ての観点において半数以上を占めている。各分野の観点別の状況は以下のとおり。

評価の観点別にみた問題ごとの設定通過率との比較

分野	評価の観点	問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
地理	関心・意欲・態度	8	3 <37.5%>	4 <50.0%>	1 <12.5%>
	思考・判断	18	10 <55.5%>	5 <27.8%>	3 <16.7%>
	技能・表現	42	21 <50.0%>	14 <33.3%>	7 <16.7%>
	知識・理解	30	7 <23.3%>	10 <33.3%>	13 <43.4%>
歴史	関心・意欲・態度	9	2 <22.2%>	3 <33.3%>	4 <44.4%>
	思考・判断	22	4 <18.2%>	8 <36.4%>	10 <45.5%>
	技能・表現	27	11 <40.7%>	10 <37.0%>	6 <22.2%>
	知識・理解	45	9 <20.0%>	18 <40.0%>	18 <40.0%>
公民	関心・意欲・態度	13	8 <61.5%>	4 <30.8%>	1 <7.7%>
	思考・判断	19	9 <47.4%>	4 <21.1%>	6 <31.6%>
	技能・表現	29	10 <34.5%>	6 <20.7%>	13 <44.8%>
	知識・理解	44	13 <29.5%>	12 <27.3%>	19 <43.2%>

### (7) 地理的分野

評価の観点別にみた問題ごとの設定通過率との比較（地理的分野）

評価の観点	問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
関心・意欲・態度	8	3 <37.5%>	4 <50.0%>	1 <12.5%>
思考・判断	18	10 <55.5%>	5 <27.8%>	3 <16.7%>
技能・表現	42	21 <50.0%>	14 <33.3%>	7 <16.7%>
知識・理解	30	7 <23.3%>	10 <33.3%>	13 <43.4%>

地理的分野については、「関心・意欲・態度」の観点では、地域の変容への関心をもとに将来を推察させる問題については、設定通過率を上回る又は同程度と考えられる。

「思考・判断」の観点では、複数の資料を関連付けて共通性を見いだす問題については、設定通過率を上回る又は同程度と考えられるが、既習事項をもとに立地条件を推察する問題については、設定通過率を下回ると考えられる。

「資料活用の技能・表現」の観点では、調査における資料の収集・選択に関する問題については、設定通過率を上回る又は同程度と考えられる。また、主題図、統計表及びグラフの読み取りに関する問題で、それぞれの資料から傾向性や大まかな特色について読み取る問題については、設定通過率を上回る又は同程度と考えられるが、数値に着目して具体的に読み取る問題については、設定通過率を下回ると考えられる。

「知識・理解」の観点では、調べ方に関わる知識を問う問題については、設定通過率を上回る又は同程度と考えられるが、自然環境に関する事実的知識を問う問題については、設定通過率を下回ると考えられる。例えば、他の温帯の都市と比べた東京の気温と降水量の特色について理解しているかどうかを問う問題 [ 2 C 3 ] ( 2 ) は通過率が3割5分であり、設定通過率を下回ると考えられる。これについては、世界的視野から見た日本の自然環境に関する特色の追究や考察を通して得られる知識・理解が、十分でないためと考えられる。

## (1) 歴史的分野

評価の観点別にみた問題ごとの設定通過率との比較（歴史的分野）

評価の観点	問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
関心・意欲・態度	9	2 <22.2%>	3 <33.3%>	4 <44.4%>
思考・判断	22	4 <18.2%>	8 <36.4%>	10 <45.5%>
技能・表現	27	11 <40.7%>	10 <37.0%>	6 <22.2%>
知識・理解	45	9 <20.0%>	18 <40.0%>	18 <40.0%>

歴史的分野については、「関心・意欲・態度」の観点では、調べ学習のテーマ設定への関心を問う問題において、設定通過率を上回ると考えられるものが多い。

「思考・判断」の観点では、略年表の主題を推察する問題や、複数の資料を関連付けて共通性を見いだす問題において、設定通過率を下回ると考えられるものが多い。例えば、示された歴史新聞のテーマを推察する問題 [ 1 A 5 ] ( 4 ) は、通過率が約4割であった。

「資料活用の技能・表現」の観点では、設定通過率を上回る又は同程度と考えられる問題数の合計が、27問中の21問を占めている。特に、単一の図版資料を読み取る問題 [ 1 A 5 ] ( 3 ) や、資料から読み取ったことを自分の言葉で説明する問題については、設定通過率を上回る又は同程度と考えられるものが多い。

「知識・理解」の観点では、図や写真を示して事実そのものについて問う問題については、設定通過率を上回ると考えられるものが多いが、事実の時代背景やその時代全体の特色を問う問題については、設定通過率を下回ると考えられるものが多い。

## (2) 公民的分野

評価の観点別にみた問題ごとの設定通過率との比較（公民的分野）

評価の観点	問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
関心・意欲・態度	13	8 <61.5%>	4 <30.8%>	1 <7.7%>
思考・判断	19	9 <47.4%>	4 <21.1%>	6 <31.6%>
技能・表現	29	10 <34.5%>	6 <20.7%>	13 <44.8%>
知識・理解	44	13 <29.5%>	12 <27.3%>	19 <43.2%>

公民的分野については、「関心・意欲・態度」の観点では、少子化、高齢化、国際化、情報化など社会の変化に対する関心を問う問題について、通過率が設定通過率を上回ると考えられる。

「思考・判断」の観点では、資料から課題を発見したり、求人広告の内容の変化など現代社会で生起するできごとの社会的意味を考えることができるかどうかを問う問題について、通過率が設定通過率を上回ると考えられる。

「資料活用の技能・表現」の観点では、資料の読み取りの問題のうち、読み取らせる資料がグラフの場合、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。また、複数の資料から読み取った情報をもとに表現することができるかどうかを問う問題について、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。例えば、資料を分類する基準を見出し、その内容を表現で

きるかどうかを問う問題 [ 3 B 5 ] ( 3 ) ] では通過率が3割5分であった。

「知識・理解」の観点では、「事実」について理解しその知識を身に付けているかどうかを問う問題と、「概念」について理解しその知識を身に付けているかどうかを問う問題に大別できる。このうち、「概念」に関する問題の方が通過率が設定通過率を下回ると考えられる。例えば、国際社会における主権国家について理解しているかどうかを問う問題 [ 3 C 7 ] ( 2 ) ] は通過率が約2割であった。

### ( 3 ) 質問紙調査の結果の概要

質問紙調査では、今回の学習指導要領の改訂で重視された生徒の主体的な学習を展開させているかどうかを把握するために「課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか」「観察や調査・見学、体験を取り入れた授業を行っていますか」「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っていますか」の三つの質問項目を設けている。これらの質問項目に対して、教師の肯定的な回答の割合は次のようになっている。

質問項目	第1学年	第2学年	第3学年
課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか	53.8(45.8)	51.5(44.5)	51.9(42.0)
観察や調査・見学、体験を取り入れた授業を行っていますか	19.2(14.4)	17.6(13.0)	15.1(12.9)
調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っていますか	45.6(44.2)	41.6(38.6)	39.0(35.4)

( )内の数値は平成13年度調査結果

このうち、「課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか」についてみると、全学年において肯定的な回答をした教師の割合は約5割となっている。また、前回に比べ、どの学年も10ポイント近く上昇しており、このような学習指導が増加していると考えられる。なお、他の質問項目については前回調査よりもいずれも数ポイント上昇しているものの、十分に行われている状況でないことが読み取れる。

地理的分野において、調べ学習に対する生徒の意識については、「きらいだった」と回答した生徒の割合が、「好きだった」と回答した生徒の割合を上回った。

歴史的分野において、「古代の文化」、中世の「諸産業の発達と新たな文化」、近世の「産業・交通の発達と町人文化の形成、地方の生活文化」、「近代産業の発展と国民生活の変化」など、各時代の産業や文化に関する項目は、教師が「生徒にとって理解しにくい」「生徒が興味をもちにくい」と回答した割合が比較的大きく、生徒も「分からなかった」「きらいだった」と回答した割合が比較的大きい。

公民的分野において、教師が「生徒にとって理解しやすい」、生徒が「よく分かった」と回答した割合が共に大きい内容は「地球環境や資源・エネルギー問題についての学習」と「基本的人権、国民主権、平和主義を中心とした日本国憲法についての学習」であったが、このうち、「基本的人権、国民主権、平和主義を中心とした日本国憲法についての学習」に関するペーパーテストの調査結果では、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が半数未満となっている。

## 2. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

### (1) 地理的分野

#### ア 地図や地球儀を活用した学習指導の工夫

ペーパーテストの調査結果から、球面上における地球的規模での位置関係や、世界地図の中で世界的視野から地理的事象の位置や分布などをとらえることが、十分でない状況がみられる。そこで、平素の授業の中で地図や地球儀をより一層活用して、生活舞台としての地球を大観させるとともに、それらによって地理的事象の位置や分布などに関する知識・理解を深めさせる指導の工夫が望まれる。

#### イ 地理的認識の基礎・基本となる知識の確実な定着

ペーパーテストの調査結果から、日本や世界の地理的認識を深める上で必要不可欠な地理的知識が、十分に身に付いていない状況がみられる。そこで、地理学習の基礎・基本となる地理的知識については、適宜機会をとらえて繰り返し取り上げたり、既得知識を活用して考察させたりするような積み重ねの指導に留意し、その確実な定着を図る指導の工夫が求められる。

#### ウ 生徒が意欲を高め、成就感を得られる調べ学習の工夫

ペーパーテストの調査結果から、「思考・判断」や「資料活用の技能・表現」の力が身に付いてきている状況がみられ、調べ方や学び方を学ぶ学習の成果が表れてきていると考えられる。このことと関連して、教師質問紙調査から、調べ方や学び方を学ぶ学習が、前回調査に比較してより積極的に実施されている状況もみられる。しかし、生徒質問紙調査で調べ学習に対する生徒の意識をみると、「身近な地域の特色を調べる学習」「都道府県の地域的特色を調べる学習」「世界の国々の地域的特色を調べる学習」について、「好きだった」と回答した割合はそれぞれ28.9%、28.8%、25.9%、「きらいだった」と回答した割合はそれぞれ45.6%、45.7%、49.5%となっており、否定的な回答の割合が肯定的な回答の割合を上回っている。特に、「都道府県の地域的特色を調べる学習」では、教師質問紙調査においても、「生徒にとって理解しにくい」が51.3%、「生徒が興味を持ちにくい」が41.2%となっており、否定的な回答の割合が肯定的な回答の割合を上回っている。

そこで、調べ学習に際しては、生徒の興味を喚起した適切な課題を設定したり、調査結果を発表し合って調べた事柄を関連付けたりして、生徒が調べ学習に意欲的に取り組み、成就感を得られるような配慮を加えた指導をさらに工夫していくことが求められる。

### (2) 歴史的分野

#### ア 歴史的事象の考察を通じて基本的な知識を定着させ歴史の大きな流れをとらえさせる学習指導の充実

ペーパーテストの調査結果から、歴史の大きな流れと各時代の特色をとらえる力や、社会の大きな変化にかかわる知識が、十分に身に付いていない状況がみられる。また、複数の資料を関連付けて共通性を見いだすなど、歴史的事象について考察する力が十分でない状況もみられる。基本的な知識は、それを課題追究的に考察することによって、より確かに身に付くものである。そしてその定着によって、歴史の大きな流れが一層明確につかめてくるのである。そこで学習指導においては、例えば、ある時代の特色を代表する事柄や社会の大きな変化にかかわる基本的な事柄を精選して取り上げ、それに関する有意義な問いを設けて、様々な資料を活用して追究させることや、単元の最後に学習全体を振り返って、その時代の特色を、年表を用いるなどして前の時代と比較しながら考察させ、生徒自身の言葉でまとめて発表させることなどの工夫が考えられる。

## イ 生徒にとって興味や実感がもてる学習指導の工夫

質問紙調査の結果に表れているように、産業や文化にかかわる学習は、生徒にとって興味を持ちにくく、理解しにくいものであると、教師もまた生徒自身も感じている。産業や文化の学習指導は、ややもすると事柄の羅列に陥りやすく、それが生徒の興味や実感的理解を妨げることになりがちである。同じことは、昭和初期から第二次世界大戦後などのように、数多くの事柄が複雑にかかわり合う時代の学習においてもあてはまる。そこで学習指導においては、例えば、身近で具体的な事例を取り上げて追究させることで、産業・経済の学習や近現代の学習を、その時代の人々の生活と結びつけた姿や実感が伴うものにしたり、代表的な事例を取り上げて他の時代と比較させることで、その時代の文化のもつ特色を理解できるようにする、などの工夫が考えられる。

## (3) 公民的分野

### ア 地理的分野と歴史的分野の学習の成果を生かした学習指導の工夫

ペーパーテストの調査結果から、地理的な内容や過去の内容が含まれた問題について通過率が設定通過率を下回ると考えられるなど地理的分野と歴史的分野の学習の成果を生かすことが十分でない状況がみられる。地理的分野と歴史的分野の学習の成果を生かすとは、両分野で育成された「関係」をとらえる力や「比較」を通して特色を見いだす力を発揮させることであり、学習指導においては、例えば、毎日食べる食事の材料はどこで生産されたものか日米の貿易品やアジア諸国との貿易品などから調べさせ、日本と世界との関係を考えさせたりするなどの工夫や、同じ場所で撮影された30年前の写真と現在の写真を比較したり、30年前の新聞広告と現在の新聞広告を比較したりして、我々の生活はどのように変化したか、現代社会の特色は何かといったテーマで議論させる指導の工夫などが考えられる。

### イ 追究の仕方を身に付けさせる学習指導の工夫

ペーパーテストの調査結果から、資料の使い方など追究の仕方が十分に身に付いていない状況がみられる。そこで学習指導においては、例えば、具体的な学習課題を設定し、それを追究するためにはどのような資料を集めてくればよいか、何を調べればよいかという追究計画を作成し、発表させ、クラスでその妥当性について話し合わせるような、追究の仕方を学習内容そのものにした指導の工夫などが考えられる。

### ウ 見方や考え方を形成する基本的な概念を身に付けさせる学習指導の工夫

ペーパーテストの調査結果から、政治や経済の基本的な概念が十分身に付いていない状況がみられる。政治や経済の基本的な概念は抽象的であるため、それを言葉として学ぶだけでは実生活において生きて働かせることも、見方や考え方として身に付けることもできない。そこで学習指導においては、例えば、「高速道路を利用するときお金がかかるが、家の前の道路を利用するときは無料なのはなぜか」「雨が続くと野菜の値段が高くなるのはなぜか」といった具体的なテーマを設けて考察させて、社会資本や国や地方公共団体の経済的役割、需要と供給、価格などの概念を身に付けさせるなど、抽象的な概念に対応した具体的な事例を教材化して追究させる指導の工夫などが考えられる。

### エ グラフなどの資料を読み取り、表現させる学習指導の工夫

ペーパーテストの調査結果から、データを視覚的に表現したグラフから情報を読み取ったり、複数の資料から読み取った情報をもとに表現する力が十分身に付いていない状況がみられる。そこで学習指導においては、例えば、データを基に生徒にグラフを作成させ、データとグラフとの関係を確認させたり、最初に簡単なグラフから情報を読み取らせ、次第に複雑なグラフを用いるなど段階を経た指導をするとともに、野菜の月別の人荷量と市場価格のグラフの題名を隠して提示しその題名を考えさせたりするなど、生徒の興味を喚起させる指導の工夫などが考えられる。また、表現については、課題を追

究して得た自分の結論の根拠を資料から引き出させてレポートにまとめさせたり発表させたりするなど、様々な機会を設けて表現させる指導の工夫などが考えられる。教師の意識調査においても、「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っていますか」という質問に対して肯定的な回答は39.0%であり十分には行われていないため、このような指導の工夫を通して調べ、発表させる活動を今後一層展開させてゆくことが大切である。